# LIFE TIMES



三菱ケミカル物流株式会社 http://www.mclc.co.jp/



平成29年7月3日(月)発行 【隔月(年6回)発行】

発行部署 : ソリューション営業第2本部ソリューション開発部

住所 : 東京都港区芝大門一丁目1番30号

電話番号 : 03-5408-4600

発行責任者 : 白土 雄二郎 お問合せ窓口: 石山 義裕

### 第130号

「目 次]

1. LPG船「菱翠」(りょうすい)進水式

2. MCLC省エネ実績(2016年度)

3. 運送業における熱中症の危険と対策

4. 首都圏ロジスティクスセンター新設倉庫 着工

5. MCLC場所紹介 ~中京支店(岐阜県大垣市)~

6. 外部データ収集と分析・活用方法セミナー 参加レポート

7. 物流効率化・生産性向上セミナー 参加レポート

#### 1. LPG船 「菱翠」(りょうすい) 進水式

4月20日大分県佐伯市にある三浦造船所において、当社支配船(※1)であるLPG船「菱翠」の命名 進水式が執り行われました。当進水式には、荷主である三菱ケミカル社、船主である恭海海運社社 長、管理会社である石峰海運社社長、当社福田社長、末延本部長をはじめとして多くの関係者が出 席し、その見守りの中、無事に進水しました。(写真1)

船名「菱翠」の命名者は当社内航部の守屋祐輔さんで、多数の候補の中から厳正なる選考の結果 選ばれました。守屋さんはこの本船のオペレーションを実際に行います。

「菱翠」の命名にあたっては、「翠には宝石の様に混じり気の無い澄んだ青緑色の意味があり、本船が事故トラブル等無く澄んだ美しい運航をする様にとの思い。明るく生き生きとした女性らしい文字 (船舶は女性に例えられます)。当社の船体カラーである緑、海の青を同時に意味する翠」との思いが込められています。

本船は、3月に就航した石炭輸送船"菱徳丸"同様に三菱ケミカル社製炭素強化プラスチック繊維を使用したカーボンプロペラ(写真2)を装着し、約4%の省エネ効果及び静粛性の向上などで船内居住環境の改善も期待できます。この取組みは省エネと環境負荷低減を実現する革新的技術として

経済産業省より「輸送機器の実使用時燃費 改善事業費補助金」の交付対象として評価 されました。

今後本船はタンク搭載などの仕上げ工事を経て7月末に竣工し、三菱ケミカル社のC3(プロピレン)とC4(RAF1)の専用船として安全・安定運航を実践し、"KAITEKI物流"に貢献します。

(※1) 当社が傭船(長期借切り)している船舶





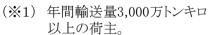
#### 2. MCLC省エネ実績(2016年度)

当社は特定荷主(※1)様への報告用や3PL事業者としての省エネ推進及び自社の省エネ活動推進のために、輸送におけるエネルギー使用量を算出するシステムを構築し運用しております。この度、2016年度の当社エネルギー使用実績がまとまりましたので掲載致します。

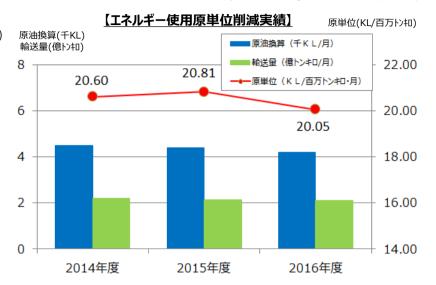
全体の原単位については、対前年比で0.76KL/百万トンキロ・月 良化しました。この主な要因は、

①トラックからJR輸送への切替 (JR輸送比率 18.9%→20.2%)

②省エネ船(※2) 1隻の導入による効果と考察しております。 今後、更なる原単位向上を図るため、モーダルシフト(JR輸送)及び省エネ船導入を推進し、省エネ活動に取り組んで参ります。



(※2) 炭素繊維強化プラスチック製 の軽量化プロペラを搭載。

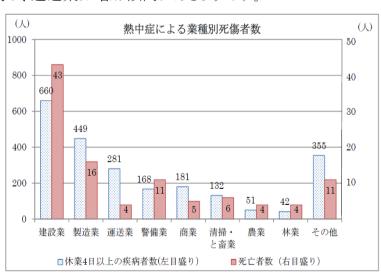


#### 3. 運送業における熱中症の危険と対策

厚生労働省より1月に発表された"直近5年の熱中症による業種別死傷者数"によると、運送業では建設業,製造業に次いで、3番目に多い死傷者が発生しています。また、夏場の気温上昇やヒートアイランド現象などにより作業環境が悪化している近年において、建設業や製造業は熱中症による死傷者数が減少傾向であるのに対し、運送業は増加傾向にあるようです。

建設業や製造業においては、管理者による現場での細やかな管理や指導、直射日光を遮る簡易的な屋根スポットクーラー、扇風機の設置など、労働環境改善の対策が浸透してきている事が減少要因といわれています。

一方、運送業の場合は訪問先での 積卸し等、1人での連続作業が多く、 時間に追われる仕事でもあることから、 休憩が計画的にとりにくいと言われて います。また、作業環境も多様で一概 に対策をとりづらい点も要因として あるのかもしれません。



当社の子会社である菱化ロジテック社においては、乗務員に対して、安全会合などで熱中症における社内教育の実施はもちろんのこと、点呼時に健康状況をより詳細に把握して注意喚起を行い、塩飴などを配布する等の対策も実施しています。また、トラックキャビン内にアイドリングストップ時でもバッテリーにより稼働できるパーキングクーラーの設置を推進し、涼しい場所で熱をもった筋肉を休められるよう、設備面の対策も行い、熱中症の発生防止に努めています。

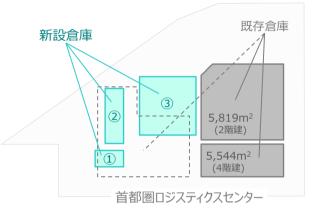
#### 4. 首都圏ロジスティクスセンター新設倉庫 着工

前号の場所紹介で取り上げた当社首都圏ロジスティクスセンター(埼玉県加須市)では、現有 倉庫のスクラップ&ビルドによる機能強化を取り進めております。本年6月、定温及び常温対応の 危険物倉庫と一般用の多層階(4階建)倉庫の新設工事に着工し、来年夏頃の竣工を予定しております。

今回の倉庫新設により、昨今引き合いが増加している危険物取扱いニーズへの対応力強化及び、主に首都圏エリアを中心とした保管・配送力向上に加え、全国ネットワークの基幹拠点としての機能強化を図りたいと考えております。当社ではこれらのインフラ強化を始めとした各種取組みを通じて、更なる"KAITEKI物流"の実現を目指して参ります。

A		^ <del>-</del> -	/= I \
首都圏ロジスティ	(クスセンター	新設倉庫	(計画)

①危険物倉庫(定温)	1 3 5 m <sup>2</sup>
②危険物倉庫 (常温)	4 5 5 m <sup>2</sup>
③多層階倉庫(4階建)	5,184 m <sup>2</sup>



#### 5. MCLC場所紹介 ~中京支店(岐阜県大垣市)の巻~

本年4月より、A社大垣工場の物流元請化に伴い、西日本エリア営業部中京支店として大垣に新事務所を開設しました。

新事務所では現地駐在員1名で、A社大垣工場からトラック・ローリーで出荷される 製品輸送や、工場周辺の外部営業倉庫管理を実施しております。日々の業務を確実・安定的に 遂行するのは当然ですが、各種効率化案の検討や物流トラブルの削減活動を通じて、当社元請 化による付加価値を生み出すことが、今後の重要なミッションです。

大垣市は、岐阜県の西濃地方に位置しており、県庁所在地である岐阜市に次いで県内第二位の人口を擁します。

市内には長良川・揖斐川をはじめ、15本もの一級河川が流れており、さらに地下水が豊富で自噴している場所が多いこともあいまって、「水の都」という異名があるほどです。その豊富な地下水をふんだんに利用して作られた郷土銘菓「水まんじゅう」はお土産にも喜ばれます。

また、桜の季節には、大垣城をぐるりと囲む外堀(水門川)で行われる川下りのイベントが有名で、水の上からソメイヨシノを存分に楽しむことができます。

江戸時代に遡りますと、俳人・松尾芭蕉が江戸深川を旅立ち、約5ヶ月をかけて全行程2,400kmを旅し、「奥の細道」の紀行を終えたのが大垣市です。市内にある「奥の細道むすびの地記念館」では「奥の細道」の本文をじっくりと読むことが出来るほか、さまざまな資料や映像で松尾芭蕉が歩いた旅の軌跡をたどることができます。

大垣市は、このような歴史情緒あふれる素敵な街です。 名古屋から電車で約30分程とアクセスも良好です。中京地区へ お越しの際は、是非お立ち寄りください!



#### 6. 外部データ収集と分析・活用方法セミナー 参加レポート

GW明け直後の5月8日に日本情報システム・ユーザー協会(JUAS)主催の「外部データ収集と分析・活用方法」と題したセミナーに参加しました。日本橋にあるJUASの会議室で20名程度の参加者とともにほぼ一日がかり、経営工学や財務管理会計を専門にするコンサルタントの巧みな話術のとりこになりながら、一睡もせず!?食い入るように聴講しました。

主に無料の公共オープンデータを対象に、目的別に様々な情報源の所在とその分析方法を具体例を通して紹介していて、市場予測やマーケティング、中長期計画や予算作成などに活用できることが理解できました。個人的には、エクセルを使った回帰分析などの統計手法を学べたことが有益であり、また直接業務には活かせないのかもしれませんが、小売業の商圏分析と出店計画など興味深い講義も含まれていました。

「生データには、求める解そのものは存在しない。求めるものの代替データとして、あるいは類推するデータとして活用するものである(例:従業員満足度は、アンケート結果よりも離職率で類推できる)」という主旨の講師からのコメントが一番印象に残っており、その言葉を胸に刻み込んで、データ収集・解析に生かしていきたいと考えています。

#### 7. 物流効率化・生産性向上セミナー 参加レポート

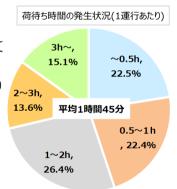
5月18日、「物流効率化・生産性向上セミナー」に出席しました。当セミナーではIoT活用によるトラック待機時間の削減とサプライチェーン物流の見える化、庫内業務の生産性向上をテーマに、物流業界の動向を交え課題と解決案の紹介がありました。

その中で特に興味深かったものとしては、ETC車載器を利用した車両識別サービスです。この

サービスは、ETCの車両識別機能を活用し車両の入退場を管理することで、納入先における荷待ち時間の解消にも繋げられるとの事です。 右記グラフの通り、荷待ち時間は乗務員の長時間労働の一因になっており、上記サービスは解決の糸口になると感じました。

物流業界は乗務員の長時間労働、人手不足などが問題となっており今後は最新ツールの活用などにより、乗務員の働き方を変えていく必要があると言われています。

また、当社は「働き方改革」を推進しています。従業員一人ひとりが働き方を見直し、仕事の生産性を高め、協働して目標達成に向けチャレンジし、活力ある会社づくりを目指しています。



出典: 国土交通省 トラック輸送状況の実態調査(H27)

## 编集级论

4月からソリューション開発部が発足し、ミッションの一つである物流ICTを活用した営業戦略 策定に向けてスタートを切ったばかりです。当社が過去から蓄積してきた膨大な実績データ や、データベース化されていない情報をフル活用できる仕組みを構築し、お客様のニーズ探 索や最適なソリューションご提案へ早期に結び付けられるよう、鋭意取組中です。

また、時期をほぼ同じくして始まった働き方改革の当社取組みにおいても、業務を行う関係者間の情報の共有化・活用がより一層大切になると感じております。この記事を書いている6月前半は、年間カレンダーの中で前後の連休から最も離れた、個人的には寂しい時期です。現在の取組みが実を結ぶことを楽しみに、梅雨の辛い季節を乗り切ってまいります。(J)